緑

三年

画数 14
筆順 「糸 紀 紆 紆 緑
オン リョク・ロク
クン みどり

成り立ち

糸はいろいろな色にそめられてつかわれるものですから、「色の名前」をあらわす字には「紅（あか）、紺（あお）、紫（むらさき）、緋（あか）」など、〝糸〟が〝色〟のいみをあらわすしるしにつかわれています。

緑は、色のいみをあらわした〝糸〟と、〝彔〟とを組み合わせて、「〝彔（みどり色をあらわすことば）〟という名前の色」をあらわしたものです。

〔彔は、穴から地下水が湧き出る形を表したものである。「天の恵み」であるから、これを〝禄〟という。〕

使い方

▽春になると、山は一面、緑におおわれます。若葉の緑は、目も心も休めてくれます。

▽むかしは、女の人の髪を「緑の黒髪」といって、その美しさを、ほめたものです。今では、髪を染めたり脱色したりして、黒い髪を嫌う人もいるようです。

熟語例

▽新緑（初夏の若葉の、みずみずしい緑色。「新緑の候、ご一家の皆さまには、お元気のことと存じます。」などと、手紙の書き出しに、つかわれることが多いことばです。）

▽深緑（深い色合いの緑。こい緑。「夏の盛りの頃は、全山、深緑におおわれる」などというふうに、つかいます。）

▽緑地（草や木があおあおと茂っている土地。「緑地帯」といえば、ふつうは緑地が少ない都市部で、ひかくてき緑地が多い地帯のことをいいます。）

▽緑風（初夏のあおあおとした若葉を吹きぬけてくる、さわやかな風。「心地よい緑風にさそわれて、つい散歩に出かけた」などというふうに、つかいます。）

礼

三年

画数 5
筆順 丶 ラ ネ ネ 礼
オン レイ・ライ
クン

成り立ち

神さまにそなえるものをのせる台の形をあらわした〝示（5年 732）〟と、人がひざまずいている形をあらわした〝乚〟とを組み合わせて作った字で、「神さまに〝拝礼（おじぎ）〟すること」をあらわした字です。

今では神さまにかぎらず、「あいてをうやまって、頭を下げること」を〝礼〟といいます。

「礼の〝作法（やり方）〟」を〝礼儀〟といいますが、〝礼儀〟のいみにもつかわれます。

また、神にかんしゃして拝礼することから、「人にかんしゃすること」をも〝礼〟といいます。

使い方

▽山本君が、ぼくのおとうさんに、「こんにちは」とあいさつをしたら、おとうさんは、「山本君は礼儀正しいね」と言いました。

▽バスの中で、お年よりに席をゆずったら、ていねいにお礼を言われました。ちょっと、はずかしかったけれど、うれしくなりました。

熟語例

▽礼儀（礼の作法。礼をあらわすやり方。「礼儀を守った行動は立派です」などというふうに、つかいます。）

▽礼節（礼儀と節度（つつしみ）。「礼節にはずれない行い」などというふうに、つかいます。）

▽無礼（礼儀が無いこと。礼儀にはずれていること。「非礼」や「失礼」も、同じいみです。）

▽礼金（お礼の金。人にかんしゃするいみで、わたすお金です。）

▽返礼（人からうけた礼に対して、返す礼。また、人になにかをもらった時、それに対して、品物などを返すことをいいます。）